

ドー・デック・ギャラリー訪問と支援活動見学

9月18日 午前講義

この日は午前中ドーデックギャラリーを訪れ、出羽氏、元ストリートチルドレンのスタッフの話などを聞き、支援活動現場を見学した。その後チェンマイの市場、華人街、イスラム寺院を見学した後、NGO リンク事務所において振り返りのワークショップを行った。

講師：出羽明子、スタッフ

キーワード：タイ・チェンマイにおける社会問題、ストリート・チルドレン、青少年の自立支援活動、職業訓練、アート・セラピー

「ドー・デック(Doh Dek)ギャラリー」は、前日17日に訪れたチェンマイのストリート・チルドレンの保護支援団体、アーサーパッターデック財団が運営する展示販売ショップである。ギャラリーの名前、「ドー・デック(Doh Dek)」は、タイ語で、こどもの「こ」の頭文字をとってつけられたもので、文字通り子供のためのショップとして設立された。

フェルトのゾウやウサギ、木工細工から絵葉書、アクセサリーなど店内商品のほとんどが、財団の支援するストリート・チルドレンの作品である。ここでの売り上げの内30%は、商品を制作した子供達に還元され、30%が彼らの職業訓練や奨学金へ、残りの40%はショップの継続的運営のための資金に充てられる。

ショップ運営と販売の目的としては、対象となる青少年への経済的収入援助のほかに、作品制作によるアートセラピーを通じた、子供達の自己表現力や集中力の向上、さらに彼らの自尊心の回復を目指している。

財団は、基本的に4歳から25歳までの青少年を支援・保護しており、対象者の年齢層は比較的広範にわたる。また、支援を受けているストリート・チルドレンの境遇も一様ではなく、家庭内での虐待から家を出てしまい、麻薬に手を染める子供達、貧困から抜け出せずスラムや路上で生活することを余儀なくされる少数民族の出身者など、それぞれ多様な事情を抱えているのが実情だ。従って財団側にとってもその具体的な支援方法には、様々な工夫と配慮が必要とされていることが伺えた。



(文責:茅根由佳)